

## "心理的安全性"で加速する「おかやま DX コア」

○船倉隆央、松島和季、前原有也美、田淵美奈、吉葉 弘子、宮崎悟（岡山大学）

### 1. はじめに

岡山大学では、新たな事業モデルの展開に向けて「おかやま DX コア」の形成を進めている。令和元年度には、地域の DX 化を担う人材を育成する岡山県寄附講座「おかやま IoT・AI・セキュリティ講座」の開講、令和2年度には、全学のデータサイエンス研究者集団の応用研究拠点である「サイバーフィジカル情報応用研究コア（Cypher）」と、企業と研究者の共同研究の場「おかやま AI・セキュア IoT 共創コンソーシアム（OASIS）」を設置した。さらに令和3年度には、文理や学年の枠を超えた学生、教職員がともに課題解決に取り組む学生サークルの「岡山大学データサイエンス部（以下、「岡山大学 DS 部」）」が発足し、キャンパスベンチャーグランプリ全国大会で連続大臣賞を受賞する学生ベンチャーを輩出している。この4つの組織は、産官学協働のアジャイル型オープンラボである「おかやま DX コア」を形成している。

### 2. 岡山大学 DS 部の活動について

おかやま DX コアの中でも今一番の盛り上がりを見せているのが岡山大学 DS 部である。同部は令和3年より結成、活動している学生サークルであり、文理や学年の枠を超え広いダイバーシティ、アイデアとデータサイエンスで、各所からの依頼等の問題解決や新たな価値創造に和気藹々と挑戦している。年齢、肩書、分野を問わず部員が集まり、現在学生約70名、教職員約20名が所属している。

同部は学生が主体となり様々なプロジェクトを手掛けるが、特に際立つ取組として、企業からのお悩み相談に対して柔軟な視点で解決策を考える動きが自然発生的に出現している。現在進行形で複数の企業・団体との連携開発・ブレインストーミングが進んでおり、これまで県内企業と10件以上の共同研究を行っている。また、最近では、同部員が企業と企業を繋ぎ、オープンイノベーションを促進する取組も行っている。

### 3. 心理的安全性を土台とした企業との連携促進について

このように、岡山大学 DS 部の活動を起点として、社会人（技術者）と大学生が心理的に共働き共育共創できる「場」（伊丹，2005）が生まれている。この活動を通じた様々な経験が若手人材、とりわけ大学生の育成に大きな効果をもたらすことは明白であり、岡山大学ではこれを強力に Activate するべく各種後方支援を行っているところである。

産学連携は企業と大学の研究者との間のみでなされるものという一般常識に変化が生じており、企業にとってこれまで敷居（心理的障壁）の高かった大学であっても、学生との繋がりをきっかけとすることで気軽に相談できる環境が岡山大学では出来上がりつつある。このことを学術的に考えると、その土台には共育共創の「場」による「心理的安全性」が企業の心理的障壁を解消しているのではないか。この仮説を検証するために、今後企業側の心理面等の変化を探り、他の大学においても同様の環境作りができないかを検討したい。

### 4. おわりに

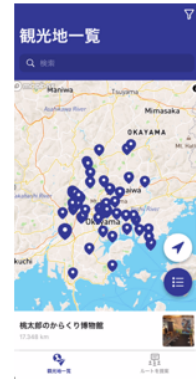
今回は岡山大学 DS 部の活動を中心に紹介するが、上述のとおり「おかやま DX コア」は4つの歯車がかみ合っていて動いている。他に起こっている現象として、例えば社会人技術者がさらに深く DX ツールを学ぶために大学の研究室に通うという「逆インターンシップ」や、おかやま DX コアから「活きた情報教育」を展開することで県内小中高から新たな要望・アクションが起こっている。これらの現象は、これからの地方・地域を活性化させること、そして大学を「共育共創・創成の拠点」とするために見逃してはならない変化であり、これら多方面からの期待に応えていくことこそが今後重要である。学外の様々なステークホルダーの「心理的安全性」を確保することで、おかやま DX コアを中心とした地域活性化に貢献していきたい。

## 【DS 部の活動】



### これまでの活動（開発）

- 学生証を忘れた時でも図書館に入館できる**QRコード図書館入館アプリ**
- 顔の画像からその人の**感情を推定する医療AI**
- **自動運転**し、移動するたびに周囲の地図を作成し更新する電動車いす
- 岡山市の**観光地を機械学習**させたデータに基づき**レコメンドする観光アプリ**



## 【おかやま DX コア】

